

平成28年度第2回公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日時：平成28年5月23日（月）13時00分～14時00分

場所：熊本県立大学大会議室

出席：学長	半藤 英明
副学長	津曲 隆
事務局長	仁木 徳子
文学部長	砂野 幸稔
環境共生学部長	松添 直隆
総合管理学部長	黄 在南
地域連携・研究推進センター長	堤 裕昭
学術情報メディアセンター長	村尾 治彦
アドミニストレーション研究科長	宮園 博光
熊本日日新聞社新聞博物館長	平野 有益
崇城大学教授・九州大学名誉教授	山田 耕路

事務局：本田事務局次長、多田隈教務入試課長、坂本学生支援課長、前田総務課長、花村企画調整室長、福島地域連携・研究推進センター事務長、安達学術情報メディアセンター事務長、教務入試課築地班長、同課松本参事

1 開会（進行：本田次長）

2 学長挨拶

3 議事（議長：半藤学長）

（1）審議事項 なし

（2）報告事項

① 熊本地震に係る対応について

事務局総務課から、資料1に基づき、「本学の主な被害状況は、建物及び空調関係の破損、照明の落下、水道管破損による漏水、研究室書架等の転倒や研究機材の破損等であった。食堂、サブアリーナ及び環境共生学部北棟の被害については早急に国の災害復旧補助金等の交付手続きを行いながら事前着工を行っていきたい。北棟の空調については6月上旬工事を目指して業者と調整中。その他は国及び県の補助金手続きを踏まえて、秋以降の対応になると考えられる。避難所としての対応は、4月14日夜の前震後、本学の自主的な判断で施設を避難所として開放。その後、日赤病院にいた近隣住民の受け入れも行い、最大約1400人となった。避難所に本学と熊本市との協定に基づく市からの職員派遣はなく、随時学生ボランティアや教職員によるサポート等による本学独自の運営を行った。4月18日には、ほとんどの避難者は市の避難所への移転等に協力いただき、結果的に縮小となった。それ以降も日赤患者等約10名が引き続き武道場を利用していたが、4月27日には帰

宅され、避難者ゼロとなった。避難所以外の主な対応としては、井戸水の提供、DMAT（災害派遣医療チーム）の受け入れ、小峯グラウンドの駐車場開放を行った。授業再開関係としては、地震発生直後からホームページにより随時情報発信を行い、翌日からは学生の安否確認を開始した。授業再開は、いろいろな状況を踏まえて検討した結果、5月9日とした。授業料については引き落とし日を変更する等した。授業料等の減免等を検討中である。」との報告があった。

② 平成28年度授業暦の変更について

事務局教務入試課から、資料2に基づき、「熊本地震による休講に伴い、①前学期の授業期間を13週に変更、②補講日を4日追加、③夏季休業開始日を8月11日から8月13日に変更した。後学期の変更はない。本学では夏季休業期間中に集中講義や管理栄養士関係の実習があるため、授業日を追加することが難しいという事情がある。補講授業や課題研究により不足する学修時間の確保を図っていく。」との報告があった。

(3) その他

① 学生のボランティア意識涵養について

半藤議長より、資料3に基づき、熊本地震に伴う本学学生のボランティア活動状況として、本学避難所運営時での献身的な活動状況及び熊本市社会福祉協議会災害ボランティアセンター運営スタッフとして中心的役割を担ったこと、地域の小中学校避難所の運営支援や避難所環境改善に向けた取組み等を行ったことを報告し、今後も日常的なボランティアを学生の意識に位置づけるためにどのようなことが考えられるかについて委員より意見を頂戴した。

② 熊本県立大学70周年の記念年に向けた取組み等について

来年度迎える70周年に向けての取組みについて委員より意見を頂戴した。

4 その他

次回日程 平成28年度第3回 6月27日（月）午後1時～本部棟2階大会議室

5 閉会